

# 社は「社業を通じて社会に喜びの輪を広げよう」

## —私益と公益の矛盾なき一致—



### 小松電機産業

### 小松 昭夫社長に聞く

小松電機産業は神さまの国、出雲で生まれたベンチャー企業。幸い小松昭夫社長もまた、世間一般の起業家という枠にはまらない人。企業経営者というより、哲学・思想家といった方が適切かも知れない。その強烈な個性から生まれる語録は難解だが、どこか新鮮。「競争と共生の両立」「企業から事業へ」「長期的・多面的・根源的」「中庸の生き方」「酸化から還元そして覚醒・蘇生循環脳へ」など。次々と飛び出す。それでも発するメッセージは不変。常に視点はアルキメデスの多面体に挑戦するように無限の球に近い。一方で社長業は「今年創業30年だが、この間一度も赤字をだしたことはない。無借金経営、金もうけもうまい」と笑い飛ばす。これからは環境健康・平和「災い転じて福となす」をキーワードに、中海・宍道湖圏が北東アジアで大きな役割を担う時代が来た、と説く小松社長を訪ねた。

(聞き手 正伝盛豪・広島総局長)

### 高速開閉シートシャッター

#### 防塵・防虫性で新市場創出

小松経営の本質は市場創造によって本来あるべき社会へ変革を促すこと。結果として、偏狭の地、島根県八束郡八雲村でのシートシャッターの「門番」の誕生と発展の過程であったと認識し

### 上下水道制御・管理システム

#### ネット活用で全国展開へ

もう一つの主力商品である『やくも水神』を投下された広島に中国山地を挟んで位置するこの地域は六道湖・中海の汚染による魚介類の大量死が起きている。地域

小松 21世紀は水の世紀といわれる中で、日本人の生存基盤である食料自給率35%、エネルギー100%輸入という現実がある。その上、紛争の続く朝鮮半島の対岸、

人類の歴史上初めて原爆を投下された広島に中国山地を挟んで位置するこの地域は六道湖・中海の汚染による魚介類の大量死が起きている。地域

ている。

高速で開閉するビニール製シートシャッター「門番」は、もともと山陰の厳しい気候風土から労働環境を守るという製品化したものだが、最近さらには新しい市場を生み出している。高い防塵・防虫性が注目され、食品、印刷、薬品業界はもとよりあらゆる業界から新規需要も多い。光の波長で昆虫を制御するオプトロン技術を使った新シリーズも順調に伸びている。国内での累計販売台数は9万台を超え業界トップの座を維持。超密閉技術や自動復帰機能など、長年の研究開発で実用化したノウハウを含め、無償技術供与した韓国をはじめ、中国にも普及が始まっている。

水を資源としてとらえ、日本で初めて中断した国家プロジェクト「中海・宍道湖21世紀プロジェクト」を立ち上げた。水と共生していたはずの地域が、水に背を向けてきた現状を、循環海洋牧場の構想を正面から見据えようというものだ。

聞き、「中海・宍道湖21世紀プロジェクト」を立ち上げた。水と共生していたはずの地域が、水に背を向けてきた現状を、循環海洋牧場の構想を正面から見据えようというものだ。



小松電機産業

社長

小松 昭夫氏

### (財)人間自然科学研究所

#### 未来を拓く知価創造機関に

「ここまでの企業活動では自然環境がキーワードですが、これに国内外の社会環境も視点に置いて「健康」「平和」を加えた事業活動を標榜されています。

小松 これを私は企業から事業へ、と言っている。小松電機は私の生家の10坪の納屋を作業所に生業からスタートした。製品がヒットし受注が増え工場も大きくなって企

業に成長した。生業とは家族や自分が生きるためにする労働。企業とは何かのために収益を目指す組織。その先にあるのが生涯をつらぬく目的共感集団事業。この事業とは生業や企業の繁栄はもとより社会のあらゆる立場の人たちの行動が、より望ましい社会に近づいていくような場と仕組みを生み出す仕事。第一歩は「環境・健康・

